

普及だより

●編集発行

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

鹿屋市打馬2丁目16-6

TEL：0994-52-2142

FAX：0994-52-2147

ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/ao01/chiiki/osumi/index.html>



目次

P.2 特集 「KIMOTSUKIファーマーズクラブへようこそ」

P.3 特集 「農作業安全特集」

P.4 特集 「農業基礎講座、農業簿記基礎講座を開講しました！」

P.5 作物トピック 「さつまいも：ムツスジアシナガゾウムシの防除を！」

P.6 畜産トピック 「子牛と繁殖牛の寒冷対策」

P.7 茶トピック 「有機栽培「ゆたかみどり」の秋肥重点施肥」

P.8 果樹トピック 「パッションフルーツの面積拡大中！」

P.9 花きトピック 「高収益が魅力！トルコギキョウ栽培ははじめませんか？」

P.11 野菜トピック 「土壌pHから考えるばれいしょの施肥管理」

KIMOTSUKIファーマーズクラブへようこそ

○ 組織体制の改革と新たなスタート

KIMOTSUKIファーマーズクラブ（以下、KFC）は、令和6年4月に組織体制を刷新し、運営を開始しました。

会員を「施設園芸」・「露地」・「畜産」の3つの委員会に分け、それぞれの課題に応じた活動に取り組んでいます。



図1 令和8年度 KFC 総会

○ 活動目的

KFCは、青年自身や地域の課題解決に取り組むプロジェクト活動を推進するとともに、会員同士の仲間づくりや、情報交換を目的としています。

これにより、会員の資質向上と地域農業の活性化を目指し、活動しています！



図2 鳥獣被害対策研修会

○ 活動内容

主な活動は以下の通りです（令和7年抜粋）

- 4月 総会
- 6月 全体研修会（熱中症対策、鳥獣被害対策、etc...）
- 夏季 部門別研修（試験場、先進農家、etc...）
- 11月 鹿屋市農業まつり
- 12月 肝属地区青年農業者会議
- 1月 大隅地域農業青年親睦大会

○ 近年の成果

令和7年度は、九州・沖縄地区 青年農業者会議で最優秀賞を受賞し、全国青年農業者会議に出場しました（「播け！日本の大地に新たな種」 露地）。

令和8年度には、九州・沖縄地区 青年農業者会議に、鹿児島県代表として出場しました（「耕畜連携が紡ぐ地域の力」 畜産）。



図3 全国青年農業者会議

○ 今後の展望

今後は会員増強に取り組み、品目の垣根を越えた耕畜連携による「資源循環型農業」の実現を目指します。若手農業者の育成に注力し、地域全体を牽引する存在となるべく活動を展開します。

農業青年クラブは地域と共に成長し、若い力が未来の農業を切り拓く原動力として、これからも地域農業の活性化に貢献し続けます。

○ 最後に...

KIMOTSUKIファーマーズクラブは、新規会員を募集しております！

切磋琢磨できる仲間づくりがしたい！同じ農業について語り合える同士がほしい！という皆様の加入をお待ちしております。

【お問合せ先】・mail kimotsuki.f.c.2024@gmail.com

・[Instagramも運営中です！](#) @kimotsuki.f.c

農作業安全特集

農繁期を迎え、トラクターをはじめとする農業機械の稼働が増える季節になりました。県内では毎年、尊い命が失われる痛ましい農作業事故が後を絶ちません。今号では鹿児島県内の農作業死亡事故の発生状況をデータで振り返るとともに、特に事故の多いトラクター作業の安全対策についてご紹介します。

1 鹿児島県内の農作業死亡事故の発生状況



鹿児島県では、平成28年から令和7年までの10年間に104件の農作業死亡事故が発生しており、そのうち85件、実に8割以上がトラクターなどの農業機械作業によるものです。本県は全国の中でも農作業死亡事故の発生率が高い地域となっています。



年齢層別では65歳以上の高齢者が全体の約8割、80歳以上に限っても約4割を占めており、高齢になるほど事故が多くなる傾向があり、体力や反射神経の変化を踏まえた安全確認がより重要になります。

2 機種別にみる死亡事故の内訳



※数値は、鹿児島県HP「鹿児島県内における農作業死亡事故の発生状況」参照。

トラクター事故を防ごう

県内の機械事故の約半数はトラクター。
今日からできる対策を実践しましょう。

トラクター死亡事故は「転落・転倒」が中心です。傾斜地やあぜ道、公道との出入口など、わずかな油断が重大事故につながります。乗車前・作業中・作業後、それぞれの場面で次の点を確認しましょう。

□ **シートベルトを必ず着用。**安全フレーム（ロプス）は立てたまま作業する。倒したまま・未着用は致命傷に直結します。

□ **傾斜地・畦（あぜ）では減速。**急旋回・急発進を避け、傾斜地は等高線方向に走行する。

□ **公道の出入り口は一時停止。**左右確認を徹底し、見通しの悪い場所では特に注意する。

□ **作業前の点検を習慣に。**ブレーキ・タイヤ空気圧・PTO 軸力バーなどを毎回チェックする。

□ **エンジンを止めてから整備。**詰まり除去や部品交換は、必ず停止・キー抜きを確認してから行う。

□ **一人作業は避け、声かけを。**やむを得ない場合は家族等と30分ごとに連絡を取り合う。

□ **子ども・高齢者の同乗は禁止。**荷台や補助席への同乗は絶対にしない。

機械作業による死亡事故のうち、トラクタによるものが41件（48%）と最も多く、耕うん機の13件を合わせると、この2機種だけで農業機械事故全体の3分の2を占めます。発生要因別では「転落・転倒」が32件と最多で、次いで「挟まれ」19件、「巻き込まれ」11件、「轢かれ」11件と続きます。

73.8歳

死亡者の平均年齢

32件

要因は「転落・転倒」が最多

農業基礎講座、農業簿記基礎講座を開講しました！

農政普及課では毎年、新規就農者等を対象にした農業基礎講座、農業簿記基礎講座を開催しています。

農業の基礎知識、基礎技術を学ぶ「農業基礎講座」は全3回で36名が参加し、パソコンを活用した複式簿記記帳について学ぶ「農業簿記基礎講座」は全2回19名が参加しました。

今年度も御出席いただいた皆様から、御好評の声をいただいております。

次年度も、農業に関する基礎的な知識を身に付け、今後の農業経営に生かせるよう農業基礎講座、農業簿記基礎講座を開講いたしますので、今年度御都合がつかなかった皆様におかれましては次年度の参加を心よりお待ちしております。

～農業基礎講座～

- (1) 第1回(6/25)：大隅地域の農業の概要、先輩農業者の講話
- (2) 第2回(7/2)：土づくり・肥料・施肥技術の基礎、農作業事故防止・農業機械
- (3) 第3回(7/13)：農業経営の基礎、制度資金活用の概要
 - 【耕種部門】病虫害防除、農薬取扱いの基礎
 - 【畜産部門】牛の飼養管理、飼料栽培の基礎



～先輩農業者の講話～
新規就農から現在まで...
参加者の皆様へメッセージを
いただきました！



～農作業事故防止について～
単独作業を避け、熱中症対策
アイテムを活用し、農作業
事故を防止しましょう！



～農業経営の基礎～
農業経営の基礎として、
経営者視点について
学びました！

～農業簿記基礎講座～

- (1) 第1回(7/21)：農業簿記の基礎、パソコン簿記
- (2) 第2回(7/22)：パソコン簿記入力演習



～農業簿記の基礎～
科目の分類や例題に基づき、
農業簿記の基礎を
学びました！

～入力演習～
PCを活用した簿記入力
の演習を行いました！



知って得する！技術情報！！

<作物編(さつまいも)：ムツスジアシナガゾウムシの防除を！>

○ムツスジアシナガゾウムシの生態



① 成虫
(体長：約9mm)



②葉柄の食害により、葉が折れた状態になるのが特徴(矢印：食害痕)



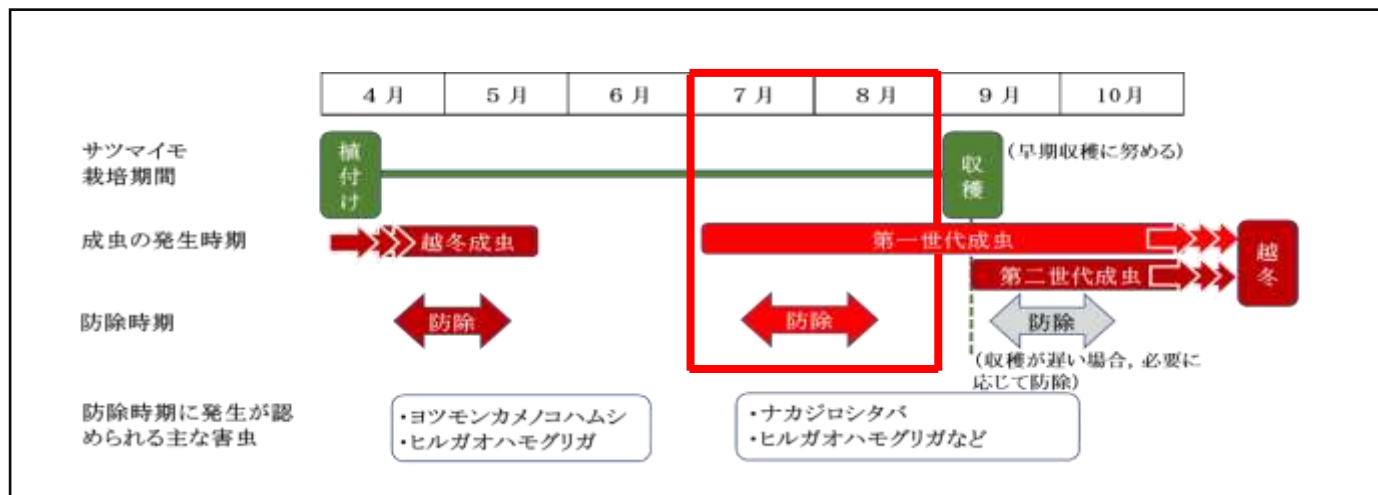
③ つるの膨れ

- ・ムツスジアシナガゾウムシ(写真①)は、さつまいも等のヒルガオ科植物で増殖しますが、成虫は様々な植物(管内ではゴボウ等)を食害します。さつまいもでは茎や葉柄が萎凋、折損します(写真②)。
- ・主に葉柄内に産卵し、幼虫は、茎の中を食害しながら发育し、蛹になります。幼虫が生息している場所は膨らみます(写真③)。食害が大きいと欠株になり、単収への影響が懸念されます。
- ・成虫は13℃を超えると摂食を始めると考えられます。
- ・さつまいもの4月植えの場合は、年2回成虫が発生すると考えられます(下図)。

○ムシナガアシナガゾウムシの防除ポイント

- ・管内では雑木林や民家等に隣接したほ場や管理が不十分なほ場で被害が多く確認されています。ほ場周辺の除草など環境整備に努めましょう。
- ・幼虫、さなぎは茎の中におり、薬剤の効果が少ないので、成虫の発生時期が防除適期です。
- ・ナカジロシタバやヒルガオハモグリガなどとの同時防除を考慮した農薬を選定すると効率的です。
- ・防除適期に地域全体で一斉防除を行い、生息密度を減らすことが重要です。
- ・農薬の使用はラベルを確認した上で適正に使用し、隣接地への農薬飛散に注意しましょう。

○さつまいも栽培でのムツスジアシナガゾウムシの防除適期



知って **得** する！技術情報！！

<畜産編：肉用牛の子牛と繁殖牛の寒冷対策>

●子牛は寒さが厳しい 11月から3月に下痢や疾病を起こしやすくなります

対策を気温が低くなり始める 10月下旬から始めると効果的です！

～寒冷ストレスの影響～

免疫力が低下し、疾病が増加

→ 日増体重が低下

2～3か月齢時の疾病の発症は、
その後の発育や販売成績にも影響



写真1：分娩後の母子の様子

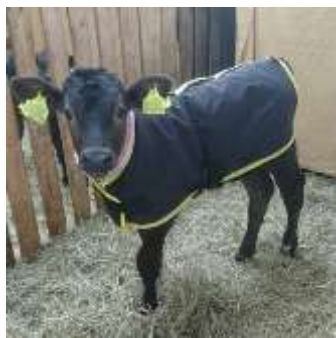


写真2 ジャケットを着用した子牛



～対策と注意点～

- ・ お腹を冷やさないよう、こまめに敷料を交換し、敷料も厚くする（マット等を活用）
- ・ ネックウォーマーやカーフジャケットを着用する
- ・ 板を設置し、隙間風を防ぐ
- ・ 適切な栄養管理（栄養価の高い餌の給与等）

●繁殖牛も気温が10度以下を下回ると寒冷ストレスを感じ、人工授精や受精卵移植時の受胎率が低下します。（1年の中で12月～1月は、繁殖成績が低下するといわれている）

⇒ 繁殖牛も子牛同様に冬場は敷料を多くし、隙間風を防ぐ等の対策を行うことで年間を通した繁殖成績の向上につながります。

●換気について

朝牛舎の換気を行い、晴れている場合日中も換気を行う

⇒アンモニアなどの有害ガスを牛舎内に滞留させないことで、子牛の呼吸器疾病を防ぐ

☆ おまけ ～秋冬作の飼料作物について～ ☆

イタリアンライグラス栽培

- ・ 気温 25℃以上の高温多湿時は「いもち病」に注意する。
- ・ いもち病抵抗性品種の積極的な利用で防除する。
- ・ 施肥設計を適切に行う（土壌のpH、硝酸態窒素に注意！）。
- ・ 収穫適期は、出穂前～出穂期。
- ・ 適期播種・適期収穫で 収量と飼料品質の両立を目指す。



写真3 いもち病の病徴

知って得する！技術情報！！

＜茶編：有機栽培「ゆたかみどり」の秋肥重点施肥＞

ポイント 「ゆたかみどり」は早生で病害に比較的強く、有機栽培茶として需要が見込まれる品種です。秋の地温が高い時期に有機質肥料を効かせることで、春先の低温期に施肥することにより窒素の無機化が進みやすく、肥料の利用効率向上が期待できます。

1 はじめに

鹿児島県では、早生品種「ゆたかみどり」の栽培が多く、県茶業の重要品種となっています。現在、高価格で取引される輸出向け有機栽培茶への関心が高まっており、病害に比較的強い「ゆたかみどり」は有機栽培に取り組みやすい品種です。ここでは、プロイラー鶏ふん堆肥とぼかし肥料を組み合わせた秋肥重点施肥の考え方と実践のポイントを紹介します。

2 なぜ秋肥を重点にするのですか

有機質肥料の窒素は、土壌中で無機化してから茶樹に吸収されます。1～2月は地温が10℃以下になりやすく、根の活性も低いため、ぼかし肥料等有機質肥料を施用しても無機化が遅れ、効き方が弱くなります。一方、10月は地温が20℃前後で根の活性も高いため、肥料成分が効きやすい時期です。

表1 秋肥重点施肥の年間体系（例）

時 期	施肥区分	主な資材	ねらい
8～9月	秋肥1・2回目	鶏ふん堆肥	土づくりと秋芽・根の充実
10月	秋肥3回目	ぼかし肥料	地温が高いうちに窒素を効かせる
2～3月	春肥2回	ぼかし肥料	一番茶前の肥効を補う
5～6月	夏肥2回	ぼかし肥料	二番茶・樹勢維持に対応

※春肥1回目を10月の秋肥3回目へ前倒しするのがポイントです。ただし、春肥2回目まで11月に前倒しする秋肥4回体系では、一・二番茶の減収がみられるため、秋肥の割合は年間窒素量の4割程度までにしてください。

3 低温期に向く有機物資材の選び方

10月下旬～4月下旬は茶園の地温が20℃を下回りやすいため、有機物資材は「速く効くか」を重視して選びます。目安は、C/N比が4～7程度で、25℃条件の窒素無機化率が60%以上の資材です。大豆粕、魚粕、肉骨粉などは低温期にも比較的使いやすい資材です。

表2 各種有機物資材のC/N比と窒素無機化率（25℃）の関係

資 材	C/N比の目安	窒素無機化率の目安	低温期施肥への適性
大豆粕	低い（4～7程度）	高い（60%以上）	◎ 適する
魚粕	低い（4～7程度）	高い（60%以上）	◎ 適する
肉骨粉	低い（4～7程度）	高い（60%以上）	◎ 適する
ぼかし肥（低C/N）	低い（4～7程度）	高い（60%以上）	○ C/N比の低い資材を選ぶ
菜種油粕	やや低い	中～高	○ 条件により適する
鶏ふん	中程度	中程度	○ 秋肥1・2回目向き
米ぬか・牛ふん等	高い	低い	△ 速効的な窒素供給には注意

知って **得** する！技術情報！！

<果樹編：パッションフルーツの面積拡大中！>

大隅半島では、温暖な気候を生かして、マンゴー、アボカド、パインアップルなどの熱帯・亜熱帯果樹が盛んに栽培されています。近年では、パッションフルーツの栽培も拡大しており、南大隅町、肝付町、東串良町を中心に栽培されています。パッションフルーツは鮮やかな香りと甘酸っぱい味が特徴で、需要の高まりに伴い栽培面積も年々増加しています。高品質な果実を安定して収穫するためには、適切な管理作業が欠かせません。ここでは、パッションフルーツの主な管理作業を紹介します。



定植（9～10月）

- ・購入苗やさし木苗を定植
- ・健全な苗づくりが重要



誘引・整枝（12～3月）

- ・主枝を棚やワイヤーに誘引
- ・1～2月に副梢を切り返し、結果枝を伸ばす。



授粉（3～5月）

- ・絵筆を用いて人工授粉を実施
- ・省力化のためポリネーターを利用する場合もある。



収穫（5～8月）

- ・紫色に着色した果実を収穫
- ・落下果を不織布で回収する方法もある。
- ・結果枝は約2mの高さから下向きに配置

知って **得** する！技術情報！！

<花き編：高収益が魅力！トルコギキョウ栽培はじめませんか？>

トルコギキョウ経営の強み

◆ 夫婦二人、30a規模で安定した所得

【施設面積30a、延べ作付面積42a】

売上：約2,000万円（100千本×200円/本）

所得：約 800万円（所得率約40%）

（減価償却費は経費に含まれていません）



◆ 農薬散布や暖房に掛かる燃料コストの低減が可能

農薬散布回数：2週間に1～1.5回（キクに比べて4～5割減）

暖房設定温度：10℃、蕾発色以降15℃（キクに比べて約4割減）

◆ 品種選定や作業・時期に合わせた栽培技術の個別指導等により、技術習得を しっかりサポート

◆ 福岡市場を中心とした出荷販売体系が確立

新規生産者の声

『暖房の燃料費が抑えられるのは大きな魅力』

『農薬散布回数はキク栽培に比べて少なく、
夏場の散布も少ないのでコストと体にやさしい』

『県域の支援体制が充実しているため、初めてでも取り組みやすい』

こんな人におすすめ！

- 👍 摘蕾や収穫など手作業を丁寧にコツコツできる人
- 👍 自分の商品や技術にこだわりがある「職人肌」の人



【ほ場の様子】



【収穫作業】



【収穫後の調整作業】

トルコギキョウってどんな花？

- ・ リンドウ科、1年草、北アメリカ原産の長日植物
- ・ 品種数が多く、花色や花形が豊富で、豪華な八重咲き品種が魅力
- ・ 花持ちがよく、冠婚葬祭から花束、アレンジ等、幅広い用途に利用される
- ・ 県内の栽培は、県本土、奄美地域における冬春期が中心

栽培管理及び体系

- ・ 種苗会社から購入した苗、または自家育苗の苗を本ほに定植（定植本数25,000本/10a程度）
- ・ 本ほでの主な管理は、定植準備、定植、整枝、摘蕾、病虫害防除、収穫、出荷調整
（手作業中心で摘蕾、収穫、出荷調整作業が全体の約7割を占める）
- ・ 収穫後、株元からの芽を仕立てて出荷する二度切り栽培も可能



チップバーンなどの生理障害が出にくく、市場評価の高い品種の選定が重要！
摘蕾などの仕立ても動画マニュアルや技術サポートで習得可能！

【県本土の栽培体系】

対象地域	作型	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
県本土	11、12月出し+5、6月出し	◎◎										
	1、2月出し+6月出し		◎									
	3、4月出し			◎								

◎：定植 ■：収穫

県内でのトルコギキョウ経営事例

【トルコギキョウ専作経営 家族労働力2人+臨時雇用】

作型及び面積

作 型	面積
11、12月+5、6月出し	12a
1、2月出し+6月出し	12a
3、4月出し	6a
計	30a

10aあたり労働時間

作業名	作業時間
定植準備	44
定植	64
病虫害防除	13
仕立て、摘蕾	145
収穫	153
調整出荷	460
その他	205
合計	1,084時間

10a当たりの収益性（2,3月出）

項 目	金 額（円）
出荷本数	21,250
単価	249
計	5,291,250

経費

項 目	金 額（円）
種苗費(34.1円/本)	853,125
肥料農薬・材料費	403,016
燃料費	449,185
運賃・出荷経費	1,267,776
その他	348,303
計	3,321,405

農業所得	（減価償却費除く）
	1,969,845円



知って得する！技術情報！！

<野菜編：土壌pHから考えるばれいしょの施肥管理>

ばれいしょ栽培ではそうか病の発生を恐れるあまり、石灰分の施用を控えてきた経緯があり、土壌のpH（以下pH）が低い状態が進んだほ場が多い傾向にあります。今後、ばれいしょにおける単収の維持のためには、土壌pHを適正な値で維持することが重要となります。

1 なんぐう地区におけるpHの現状について

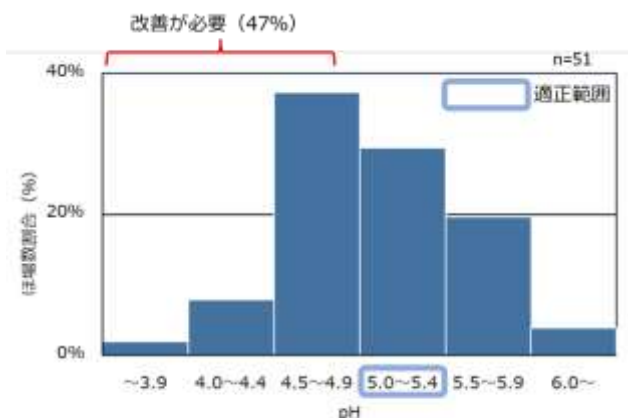


図1. なんぐう地区のばれいしょほ場におけるpH毎のほ場数

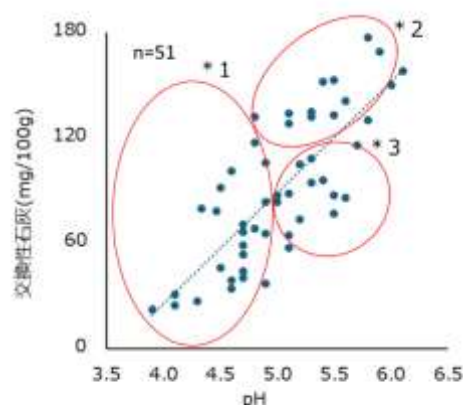


図2. なんぐう地区のばれいしょほ場における交換性石灰とpHの関係

・なんぐう地区のばれいしょほ場におけるpHの現状として、令和8年度の土壌診断の結果、pHが適正範囲（5.0～5.4）より低いばれいしょほ場が多く存在することがわかりました（図1）。また、図2は交換性石灰（植物が利用できる状態のカルシウム）と土壌pHの関係を示した散布図です。図2より交換性石灰とpHの間には正の相関関係があり、交換性石灰が低いほ場ほどpHが低いことがわかります。

2 土壌改良の流れ

- ・土壌診断を受け、診断結果から施肥設計を考えます。

	診断結果（*は図2を参考）	対応
土壌診断 →	*1 pHが適正範囲より低い	→ 苦土石灰を施用、pHを適正範囲に （事例：苦土石灰 50～100kg/10a）
	*2 pHが適正範囲もしくは高い	→ pHを適正範囲で保つ。不足分は補う （事例：硫マグ 50kg/10a、エスカル 60kg/10a）
	*3 pHが適正範囲より高く石灰が少ない	→ 硫酸石灰を施用、石灰を補給 （事例：畑のカルシウム 40kg/10a）

土壌pHを適正範囲内にとどめるには？

pHを含め、土壌の化学性は短期間で改善されるものではなく、適切な施肥管理を継続することで徐々に改善されていくため、長期的な視点での土壌管理が重要です。